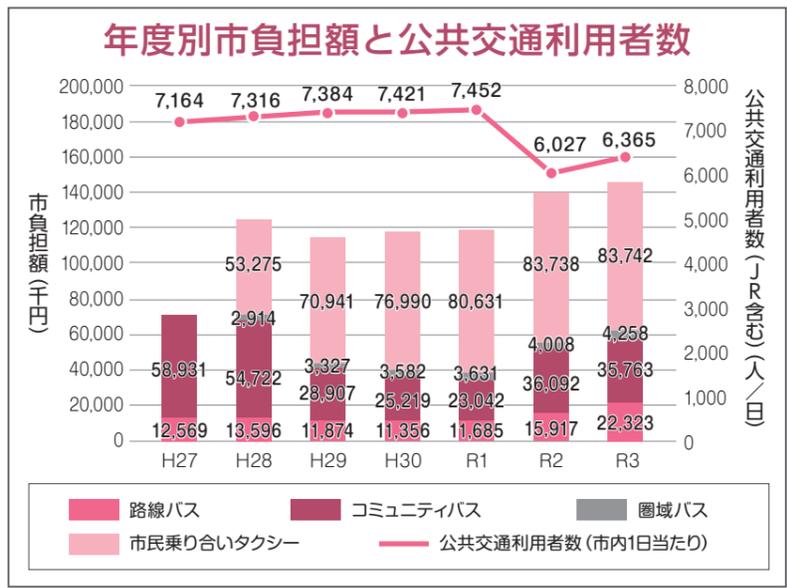




市内を運行する公共交通の運行ルートや時刻表については、公共施設などで配布している「たつの市おでかけ時刻表」をご覧ください。

市ホームページでもご覧いただけます!!



## ～将来のために今、考えよう～

# 地域に公共交通を残していくには

鉄道やバス、タクシーなど私たちの身近にある公共交通は、地域の足として重要な役割を担っており、特にマイカーを持たない高齢者や学生などにとっては、日常生活に欠かすことができません。

しかし、人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響による利用者の減少など、公共交通をめぐる環境は厳しくなっています。

交通の利便性が高く、住みよいまちを維持するため、公共交通のメリットを理解し、継続的な利用を考えてみましょう。

▶まちづくり推進課 (☎64・3121)

### 公共交通の利用者が減少すると……

公共交通を使う人が少なくなると、運行するための経費が足りなくなり、1日に動かせる本数を減らさないとはいけなくなります。そうなると公共交通は、「使いにくい乗り物」になってしまい、使う人がさらに少なくなり、**最悪の場合、公共交通がなくなってしまってもかもしれません。**

**公共交通に対する市の支援**  
地域の足である公共交通を維持・存続するため、市は、路線バスやコミュニティバス、圏域バス、市民乗り合いタクシーの運行に、年間約1億4千万円以上の経費を負担しています。

公共交通の利用者が減少する中、その費用は年々増加しており、交通事業者の努力や行政の補助だけで公共交通を維持・存続するのは限界があります。

**「人ごと」ではなく「自分ごと」**  
公共交通がなくなった場合、影響を受けるのは現在利用している人だけでは限りません。今は自分や家族がマイカーを運転している場合でも、病気やけがなどで急に運転ができなくなったり、高齢になり運転免許証を返納したときには、公共交通が必要となります。

将来にわたり公共交通を維持していくため、一人ひとりが公共交通の問題を「自分ごと」として考え、マイカーに依存している生活から、公共交通とマイカーをつまぐ使い分ける生活へ変えてみませんか。

### 路線バス・タクシー

路線バス・タクシーについても、コロナ禍による利用者の減少や燃料費高騰等により、事業収益が悪化しています。

また、全国的な運転手不足の影響もあり、利用者の少ない路線の存続や事業継続自体が困難になっています。

### JR姫新線

JR西日本は令和4年4月に、1日の利用者が2,000人/km未満の路線を公開しました。本市を運行するJR姫新線においては、播磨新宮駅～上月駅間が該当しており、この区間では、年間約6億円の赤字が出ていることが発表されました。

本市では、JR姫新線の利用促進や沿線の活性化を目的として、駅周辺の整備や、沿線の自治体等で構成する「姫新線利用促進・活性化同盟会」での活動に取り組んでいるところです。

また、今年度から、兵庫県を中心に、沿線自治体や事業者、有識者の意見を幅広く聴取する「JRローカル線維持・利用促進検討協議会」を設置し、路線維持に向けた協議を進めています。